

新日本歌人協会第五十三回
九州・山口近県集会在 熊本
実行委員会新聞

二〇一九年4月18日号



熊本支部
のサイト
はこちら

48名の方が歌会に参加されます

新日本歌人協会九州山口近県集会在IN熊本への参加者の皆さま、実行委員一同厚く御礼申し上げます。詠草集の作品の通り、48名の方から歌会への参加申し込みがありました。

また、清田由井子先生の講演をお聴きしたい、と多くの問い合わせがあり、どのような講演になるのか私たちも楽しみにしています。

別紙、「参加されるみなさまへ」にもご案内していますが、選歌葉書にご記入の上、5月5日までに投函してください。

- (1) 選歌5首を番号でご記入ください。
- (2) 初日の自由由行動の行先をお選びください。
- (3) 菊池恵楓園ツアーの交通手段、帰り先をご記入ください。

熊本のことなら、お気軽にご相談下さい

前泊、あるいは後泊される方で行ってみたいところや、交通手段等、ご不明な点は事務局までご相談ください。

菊池恵楓園探訪ツアーに 26名の参加申し込み

嬉しいことに、たくさんの方からツアーの申し込みがありました。菊池恵楓園は、映画「厚い壁」の舞台になったところですよ。ぜひ、この目で確かめてください。とても悲しい

歴史がありますが、ともにその悲しみを共有することで、訪れる私たちも、そしてここに暮らす元ハンセン病患者の皆さんも勇気づけられることと思えます。熊本支部の淀さん、神田さんもガイドを務めます。

ハンセン療養所 恵楓園をガイドして

淀 房子(熊本支部)



「この小さな小さな骨壺を見てください」「名前が二つ書かれたのもありますよ。なんでだろうね?」

私のガイドは、「〇〇年に何がありました。」「ここは〇〇跡です。」をいつも逸脱しています。四月一日県北の中学生を前にいつもの問いを投げかけました。「何故だと思う?」恵楓園にはいくつもの何故があります。今も自分の中にも差別や偏見と向かい合わねばなりません。

約半世紀前、看護学生だった私は恵楓園の見学に來ています。納骨塔・火葬場跡・監禁室そして

瓶に詰められた胎児標本などなど。今ガイドしている小中学生より愚かで鈍感な学生でした。衝撃は受けたはずですが、「病気だから仕方ない」「国の政策だったんだから」「運命だったのかも・・・」そして無関心だったのです。私の中に「何故?」が沸き起りませんでした。

1998年無知を思い知らされることになりました。熊本県の母親大会だったと記憶します。今は亡き恵楓園のMさんがハンセン病国賠訴訟の13人の原告として訴えをしておられました。手は義手でした。プロミンという特効薬ができ、民主国家となつたはずの戦後も国のハンセン病政策は続き、憲法違反として訴訟が起されたのです。内部でも意見が割れ、「そつとしておいてほしい」「白日にさらせば差別がもつとひどくなる?」などあつたと聞きます。

子どもたちに問いかけています。運命の病気でなく、菌の力も弱い感染症だよ。何故終生隔離なんて政策がとられたのか、結婚は奨励されても子孫を残さないように断種や堕胎が行われたのか、故郷を捨て家族と別れ、名前まで変えねばならなかったのか。それが国の名のもとに・・・

自分が無知であつたこと、あるいは偏見も払拭していなかったことを語っています。だから「おかしいよね、何故?」と疑問を持ち学んでほしいと語っています。正しく知る「知の力」を信じ、自分の心と向き合うことで、今も私が乗り越えようとしていることを話しています。

どうぞ恵楓園の庭を一緒に歩きましょう。新緑の園庭は素敵です。

前号に引き続き、菊池恵楓園に生きた歌人の秀歌をご紹介します。ハンセン病患者として覆い被さったやるせない苦難が三十一文字に凝縮し、まさしく表現者としての歌人の生き様を私たちに示してくれています。

菊池恵楓園の歌人たち 2 (選歌 寺内實)

津田 治子

いつ逢はむたどきを知らに老父が身をいたはれと短く言ひつ

塗ることもなき口紅が引出しにありてここにも過ぎし年月

夕づきて光折合へば虹彩炎病む眼をこらし物縫いはじむ

蔦かづらからめる石に眩やかむ石は言葉を持たぬもの故に

芝の根のわづかに青み来し土に亡き夫が履きし下駄洗ひ干す

高原は空の茜もくろずみて草にうづらのこゑしづまりぬ

妻も子も在る人ながら外の世のことと思ひて副ひたり吾は

首の皮膚うゑし眼瞼(まぶた)にながき毛の生ひさがりては眼をつつきくる

眼を閉ずるだけで面のやはらぐと今宵むかへば夫の言ひたり

水を撒き終れば今日の過ぐる思ひ気短かに強情に鳴け油蟬

枯草の中なる石に日が照れば死にしとききし父の思ほゆ

身をよぢて苦しむ吾に月が照る月の光もうるさきものよ

淡々と積もりし雪の上をきてしばらく痛む閉ぢぬまなこの

苦しみのきはまるときにしあはせのきはまるらしもかたじけなけれ

死ぬべくは死ぬべしといふ心にはなりがたくしてながき苦しみ

畑野 むめ

この丘に射撃場そのまま残りゐる戦ひを忘れられし如くに

としどしに狭くなりたる檜の山に枯葉降りこぼす風立ちにけり

まわりくどく人の誤魔化す核心を言ひ放ち常に憎まれすぎぬ

所得なき我等が受くる品々の年越しのもの今日も待ちをり

常ならぬ病を告ぐる津田治子小さき夏布団敷きて臥しをり

車椅子にて来り津田治子はげましし伊藤保も忽に亡き

病みの身を冬着に包み人の目を怖れつつ来ぬひと目逢はむと

重病室にながくなりたるわが夫のかへる日を待ち花の種播く

雨の中に夫の棺の見えずなりぬ傘さして誰か吾を支へき

プロミンのなき世を病みし亡き友らうけつぎ守りきこの檜の影誌